

いきいき安心プランIXまつど策定のための 市民アンケート調査

調査結果概要

本概要の対象調査

若年者調査
一般高齢者調査
事業対象者・要支援認定者調査
要介護認定者（軽度）調査
要介護認定者（重度）調査

※割合の表記について

例：6割の場合
四捨五入して 57% 6割弱
四捨五入して 58%～62% 約6割
四捨五入して 63%～66% 6割を超える

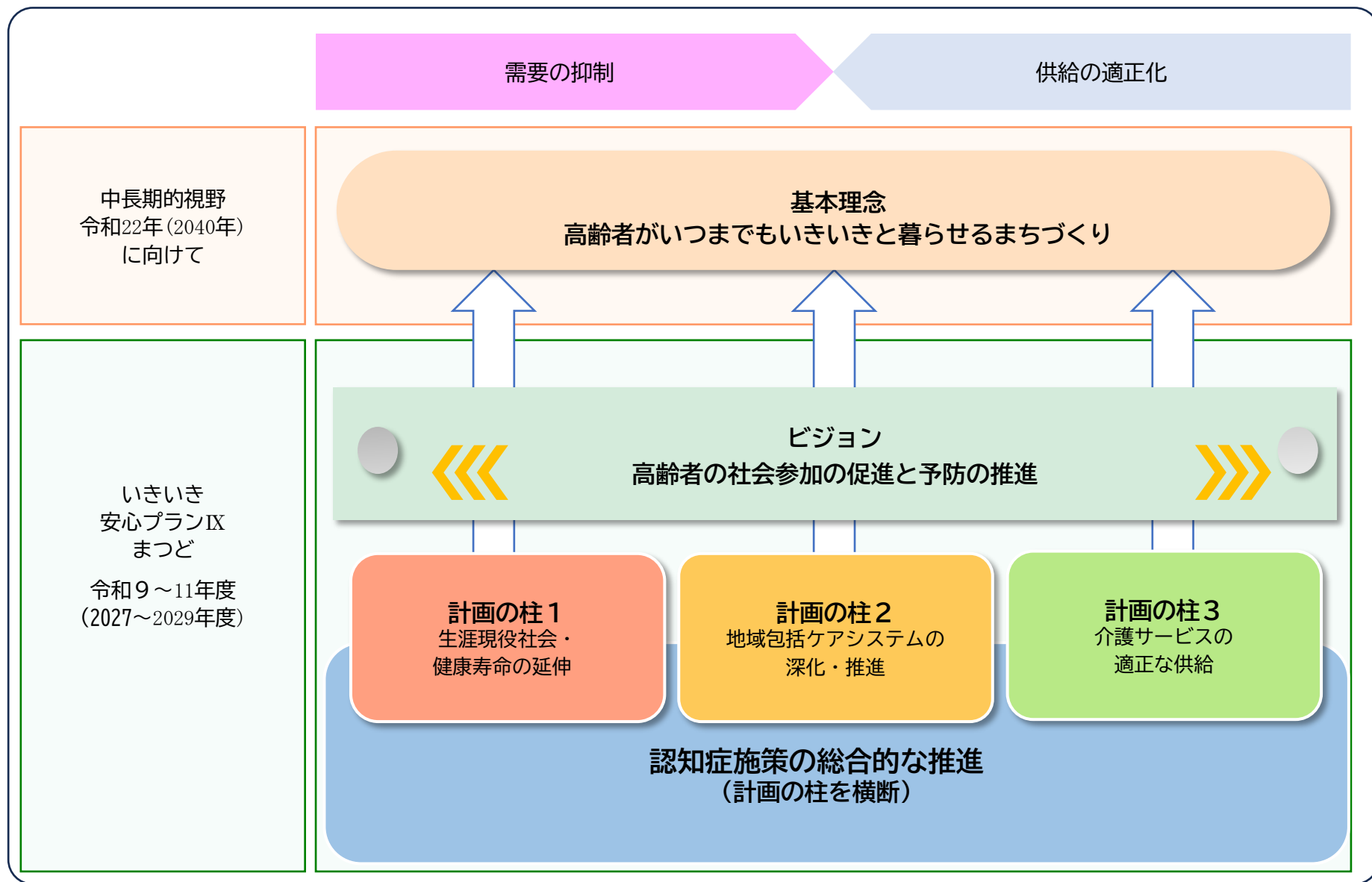
※増減の表記について

1%未満の増減 変化なし
1%以上～3%未満の増減 微増・微減
3%以上～10%未満の増減 増加・減少
10%以上の増減 大幅増加・大幅減少

調査実施の概要

	若年者調査	一般高齢者調査	事業対象者・ 要支援認定者調査	要介護認定者 (軽度)調査	要介護認定者 (重度)調査
対 象	介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市民	介護予防・日常生活支援総合事業対象の特定を受けていない市民及び介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市民	介護予防・日常生活支援総合事業対象の特定を受けている市民及び介護保険の要支援の認定を受けている市民	介護保険の要介護認定1・2を受けている市民(施設入所者除く)	介護保険の要介護認定3・4・5を受けている市民(施設入所者除く)
年齢区分	40歳～64歳	65歳～	40歳～		
基準日	令和7年10月1日				
母集団	177,385人	128,723人	7,925人	19,381人	
標本数	3,000人	10,500人	3,000人	4,500人	
標本割合	1.7%	8.2%	37.9%	23.2%	
抽出方法	15圏域による層化無作為抽出			無作為抽出	
1圏域あたり抽出数	200人	700人	200人	—	
調査期間	令和7年10月3日～令和7年10月31日 4週間 (調査票回収については令和7年12月7日まで有効)				
調査方法	郵送配布 / 郵送回答 及び Web回答 併用				
配布数	3,000人	10,500人	3,000人	2,260件	2,240件
回答数	1,170件	7,371件	1,942件	1,114件	1,054件
郵送回答数	573件	6,323件	1,767件	924件	871件
Web回答数 (Web率)	597件 (51.0%)	1,048件 (14.2%)	175件 (9.0%)	190件 (17.1%)	183件 (17.4%)
回答率 (前回回答率)	39.0% (36.2%)	70.2% (54.7%)	64.7% (56.2%)	49.3% (43.1%)	47.1% (40.9%)

いきいき安心プランまつど 施策体系

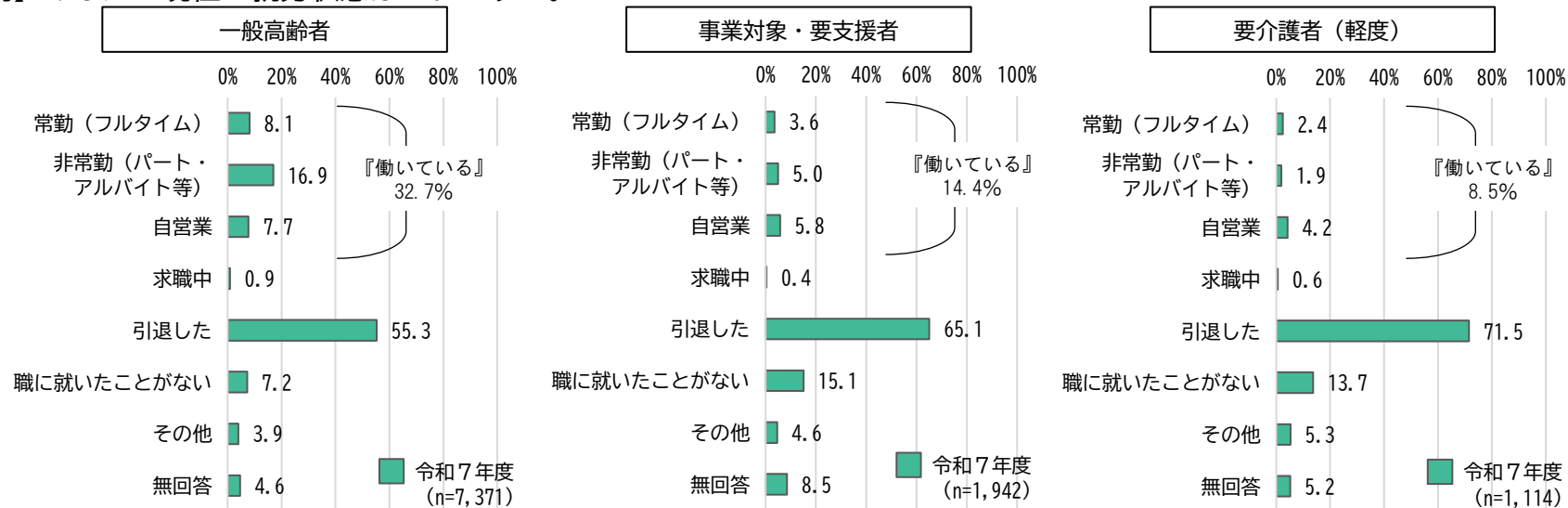


1. 生涯現役社会・健康寿命の延伸

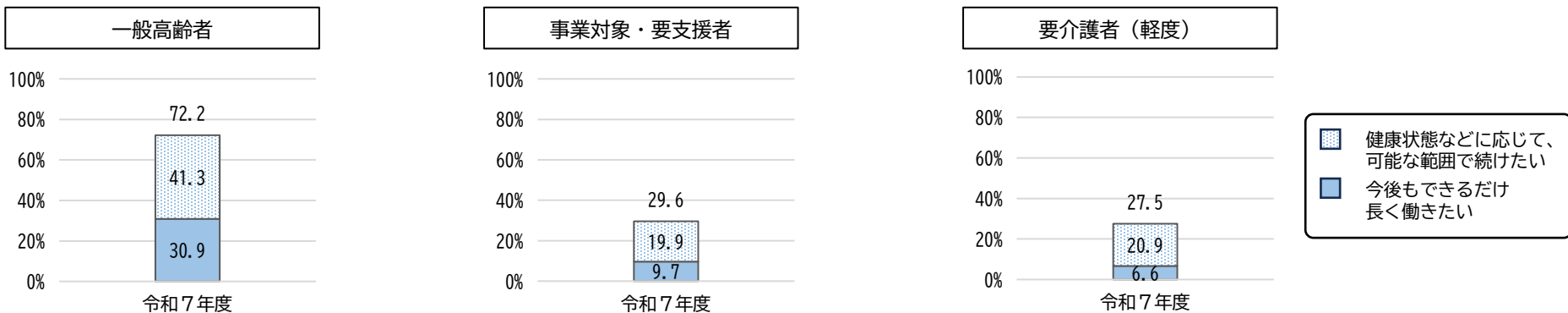
- 『働いている』方は一般高齢者で3割を超える。事業対象・要支援者は1割を超える程度、要介護者（軽度）は一般高齢者の約1割となっている。
- 現在働いている人で働き続けたいという意欲がある人は一般高齢者で約7割。事業対象・要支援者、要介護者（軽度）では約3割となっている。

就労状況

【問】 あなたの現在の就労状態はどれですか。



【問】 （現在働いている人）今後も働き続けたいですか。

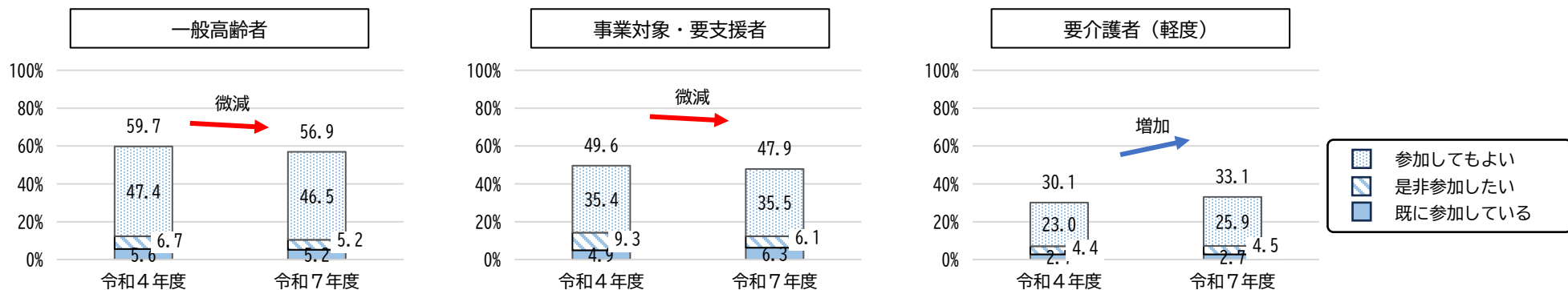


1. 生涯現役社会・健康寿命の延伸

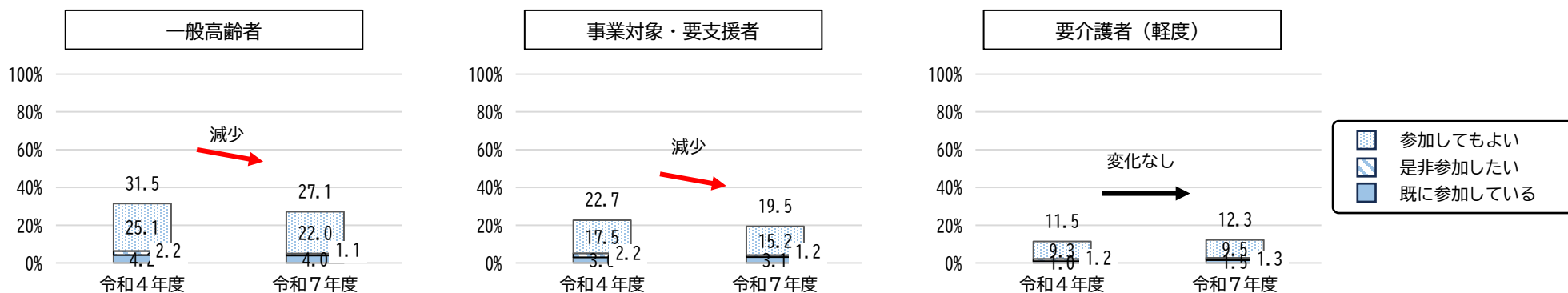
- 地域づくり活動に参加者として『参加意向あり』は一般高齢者で6割弱、事業対象・要支援者で約5割、要介護者（軽度）で3割を超える。
- 地域づくり活動に企画・運営として『参加意向あり』は一般高齢者で3割弱、事業対象・要支援者で約2割、要介護者（軽度）で約1割となっている。

地域づくり活動参加状況

【問】地域づくり活動に参加者として参加してみたいと思いますか。



【問】地域づくり活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

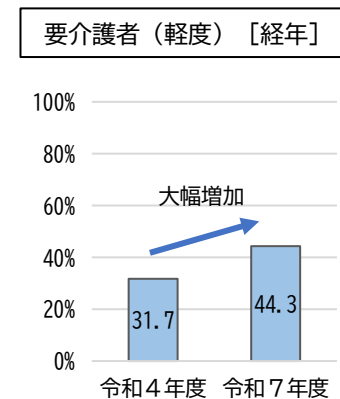
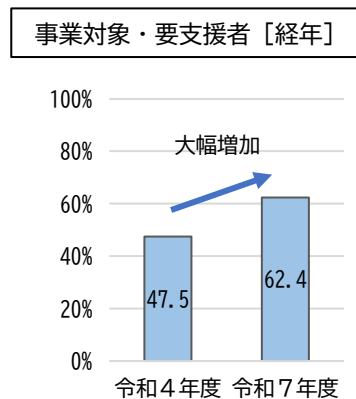
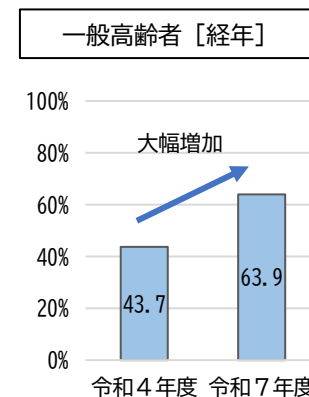
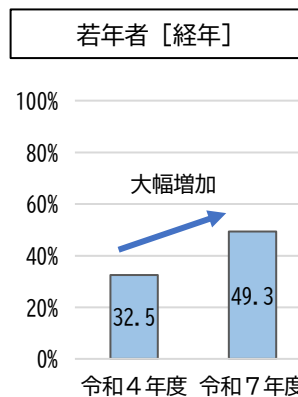
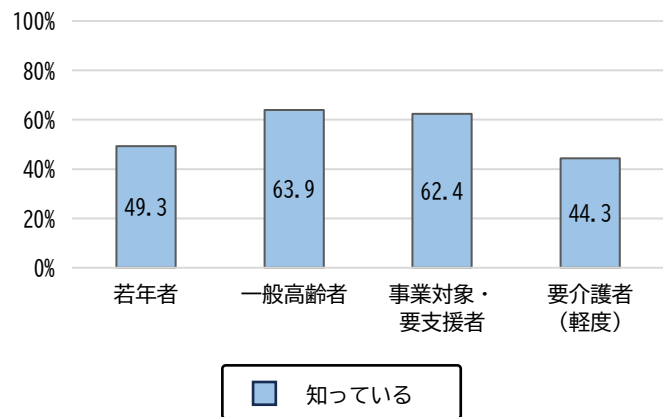


1. 生涯現役社会・健康寿命の延伸

- フレイルの認知度：前回調査からいずれも大幅増加し、一般高齢者、事業対象・要支援者で約6割を超える。一方で、要介護者（軽度）は4割を超えるにとどまっている。

フレイルの認知度

【問】フレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）について知っていますか。



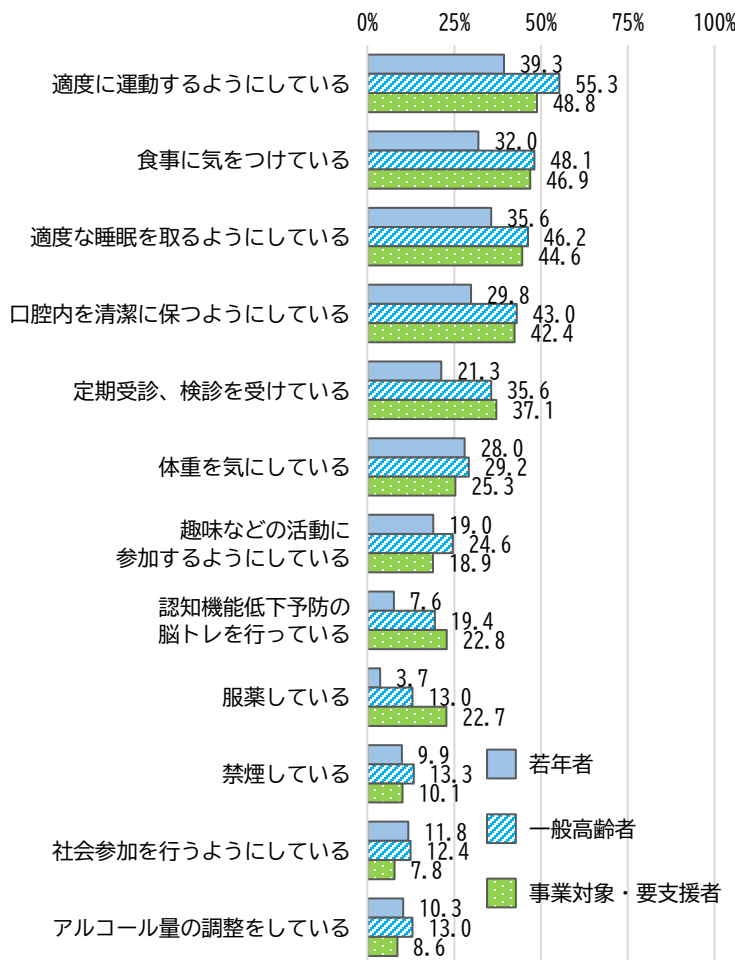
知っている

2. 地域包括ケアシステムの深化・推進

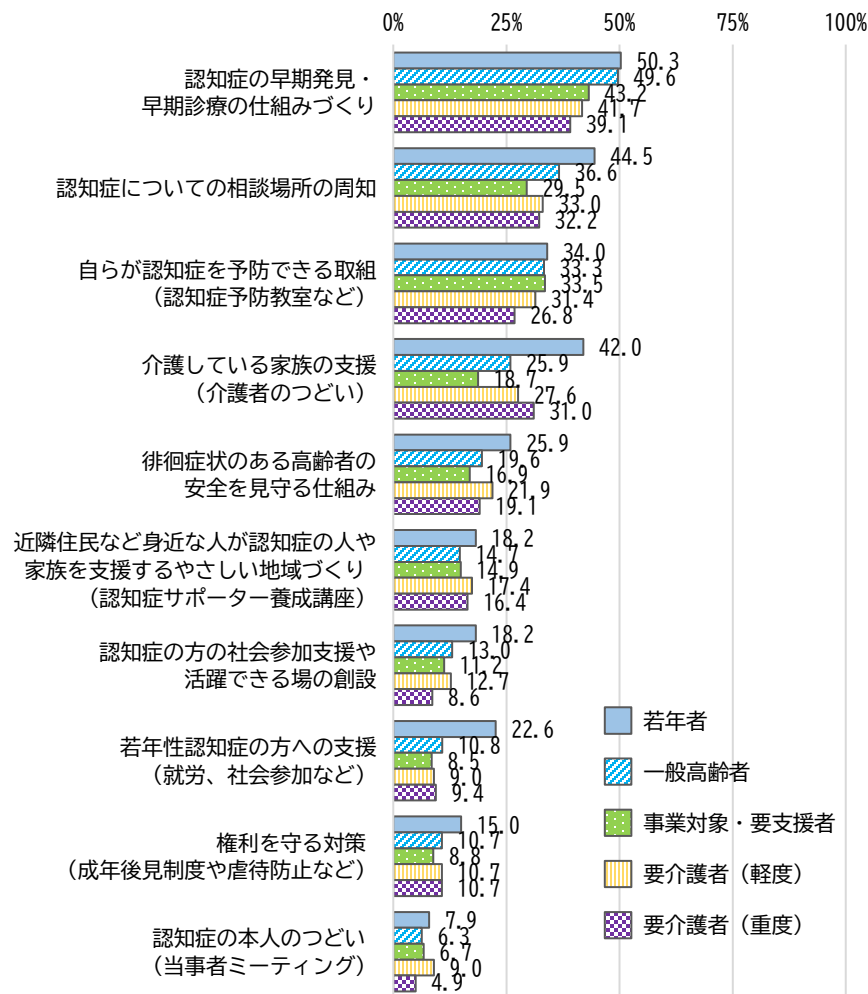
- 認知機能を維持するために意識していること：いずれも「適度に運動するようにしている」が最も多い
- 認知症対策について、より充実させたほうがいいと思うもの：「認知症の早期発見・早期診療の仕組みづくり」「認知症についての相談場所の周知」

認知症相談窓口の認知度・認知症対策の充実化

【問】 認知機能を維持するために意識していることはありますか。



【問】 松戸市が行っている認知症対策について、より充実させたほうがいいと思うものはどれですか。

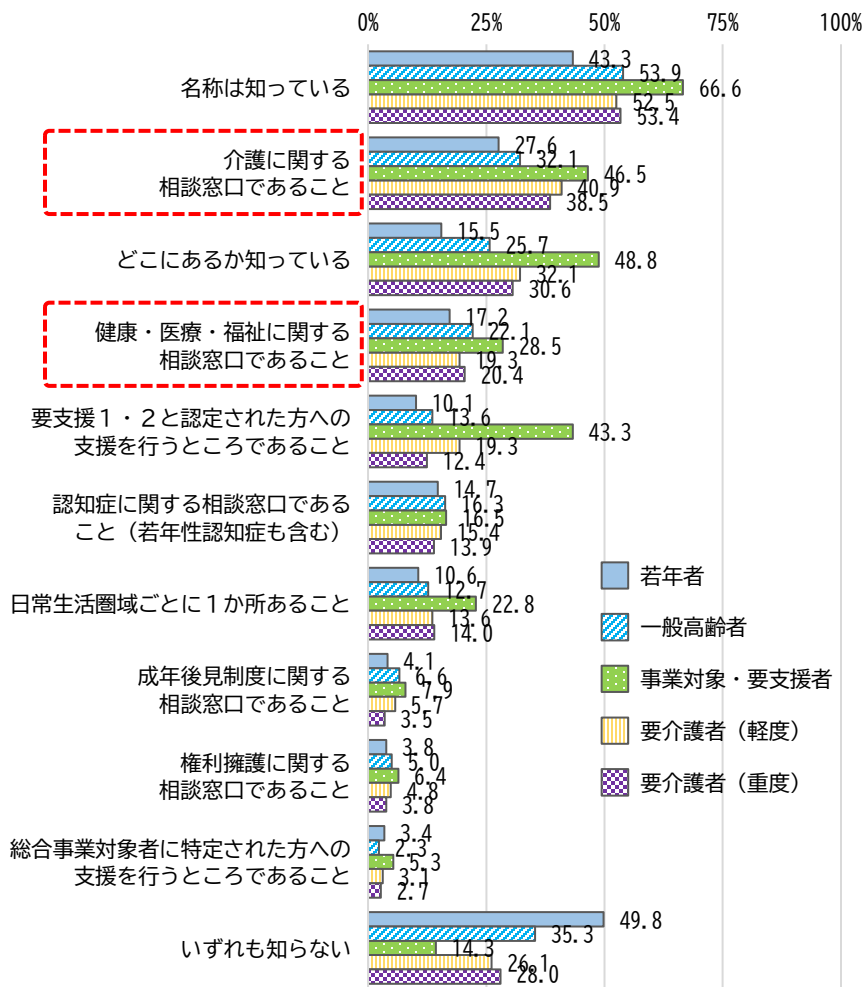


2. 地域包括ケアシステムの深化・推進

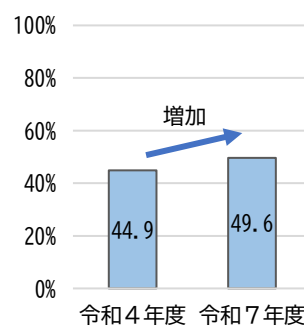
- 高齢者いきいき安心センターの認知について、「介護に関する相談窓口であること」は3割前後～4割超え、「健康・医療・福祉に関する相談窓口であること」については2割弱～約3割となっている。
- 「名称は知っている」「介護に関する相談窓口であること」など、『いずれか知っている』が前回調査からいずれも増加し認知度が高まっており、若年者で約5割、一般高齢者で約6割、事業対象・要支援者で約8割、要介護者（軽度）要介護者（重度）で6割を超えている。

高齢者いきいき安心センターの認知度

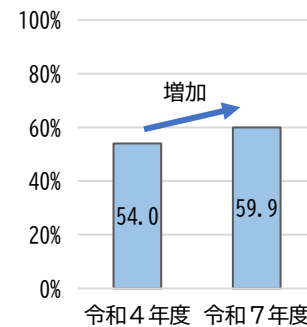
【問】 高齢者いきいき安心センター（地域包括支援センター）について知っているものはどれですか。



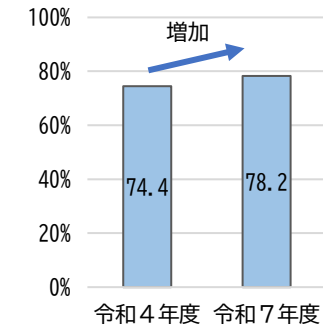
若年者 [経年]



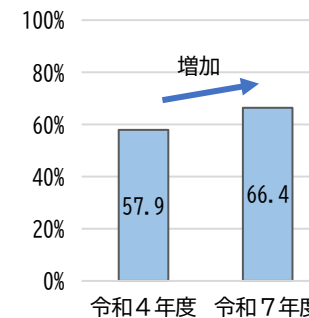
一般高齢者 [経年]



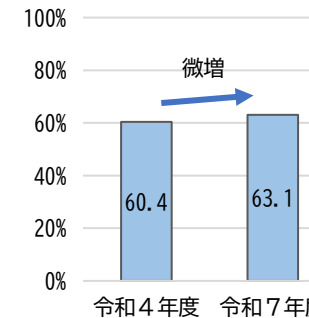
事業対象・要支援者 [経年]



要介護者（軽度） [経年]



要介護者（重度） [経年]



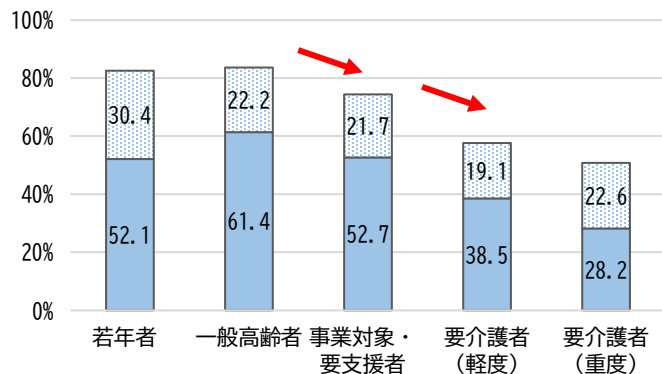
■ いずれか知っている

2. 地域包括ケアシステムの深化・推進

- 避難場所・経路を把握：事業対象・要支援者は一般高齢者に対し約9ポイント低く、要介護者（軽度）は事業対象・要支援者に対し約14ポイント低くなっている。
- 災害などが起こったときに、避難所への同行に協力できる割合が若年者で7割を超え、一般高齢者では約6割となっている。

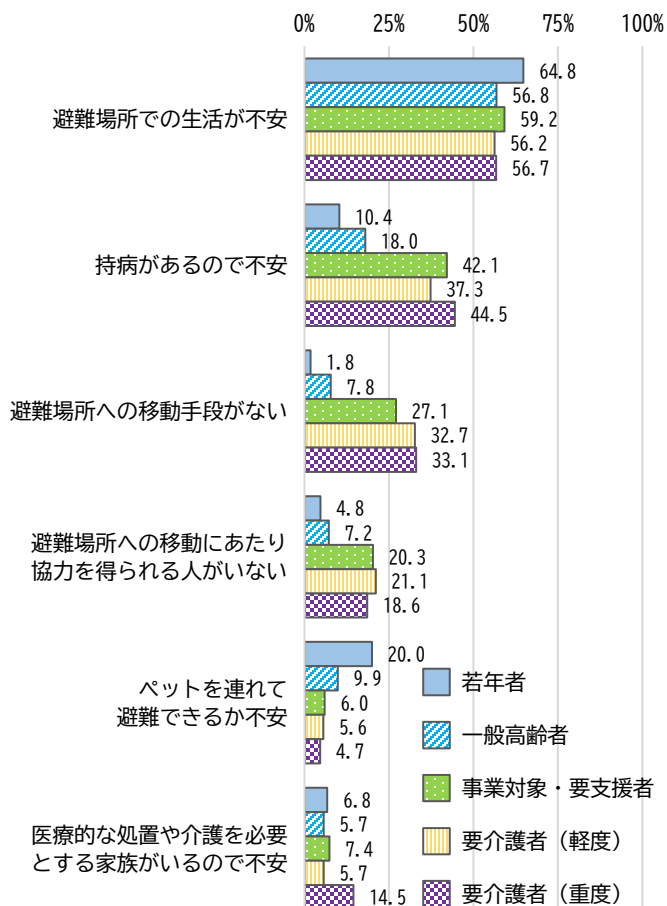
地域の避難場所や経路の認知度・避難時の不安

【問】地域の避難場所・経路を把握していますか。

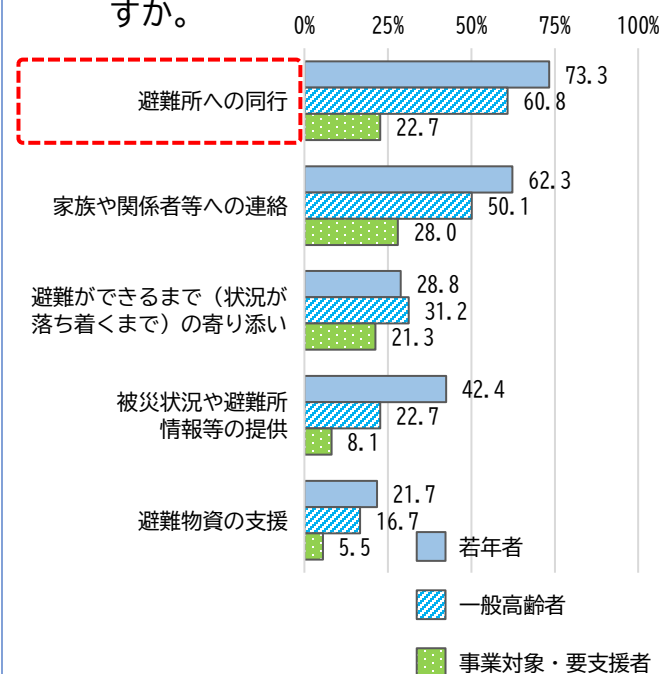


■ 避難場所は把握しているが、経路は把握していない
 ■ 避難場所・経路を把握している

【問】避難するにあたり不安はありますか。



【問】災害などが起こったときに、手助けがないと避難ができない方から支援を求められた場合、協力できることは何ですか。

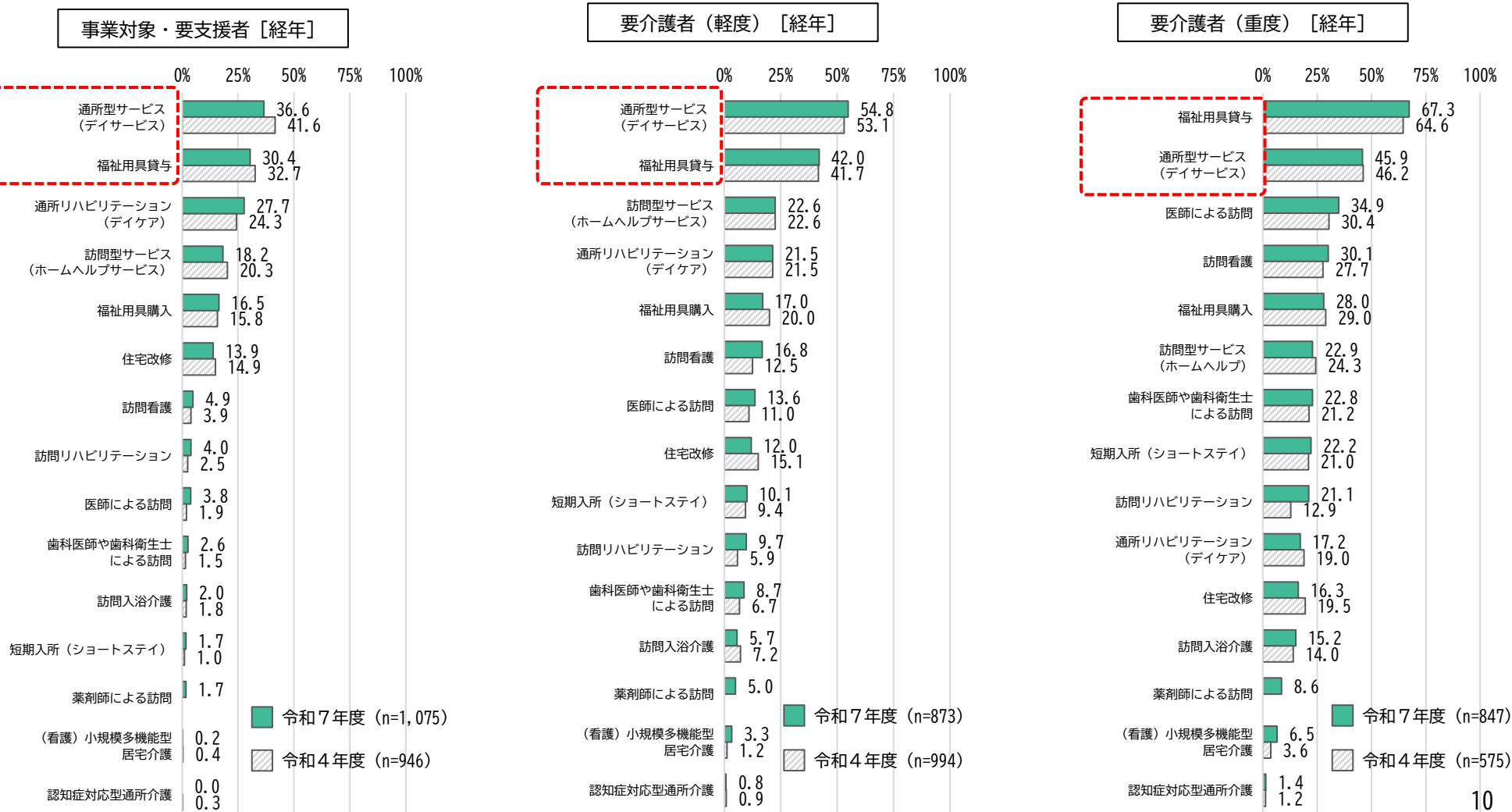


3. 介護サービスの適正な供給

- 事業対象・要支援者、要介護者（軽度）では「通所型サービス（デイサービス）」が最も多く、次いで「福祉用具貸与」となっている。
- 要介護者（重度）では「福祉用具貸与」が最も多くなっており、次いで「通所型サービス（デイサービス）」となっている。

在宅サービスの利用状況

【問】 次のような在宅サービスを利用していますか。

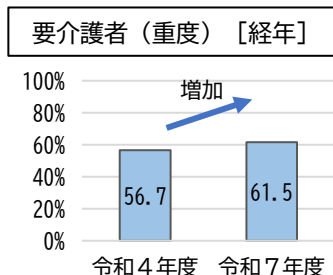
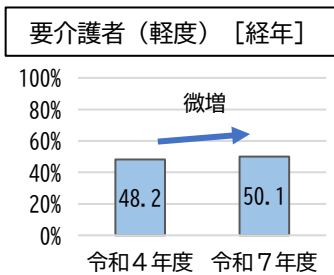
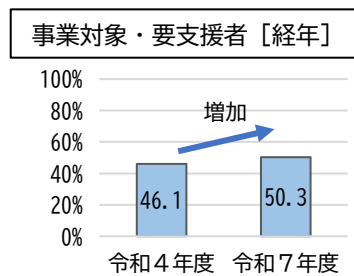
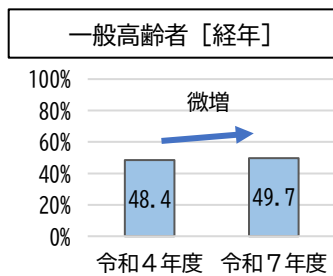
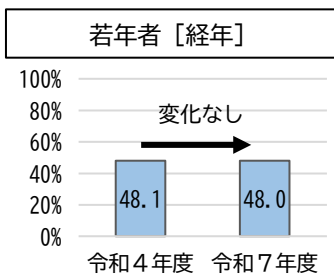
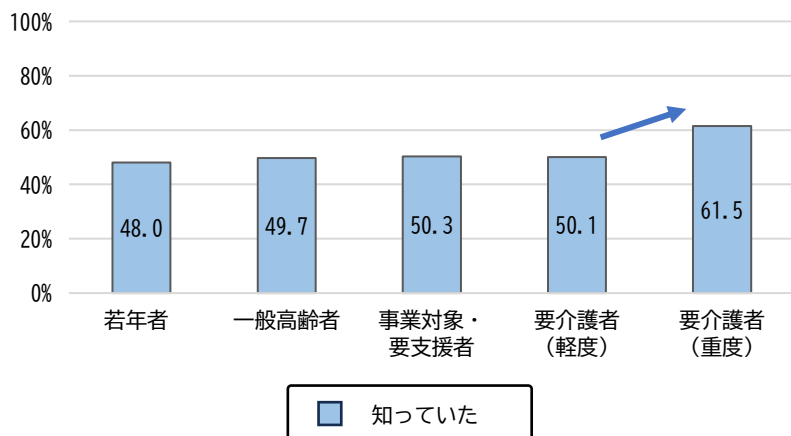


3. 介護サービスの適正な供給

- 在宅医療の認知度：要介護者（重度）では約6割、それ以外は5割前後
若年者以外は前回調査から増加傾向
- 在宅医療の利用：要介護者（軽度）に対し要介護者（重度）は18ポイント高くなっており、利用割合が約2倍となっている。
前回調査からいずれも「利用してみたい」「すでに利用している」の計について増加傾向
要介護者（軽度）・要介護者（重度）ともに利用者（すでに利用している）が増加

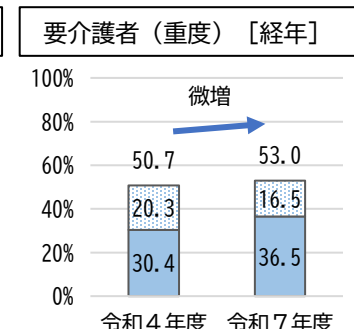
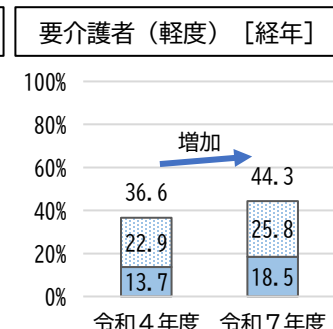
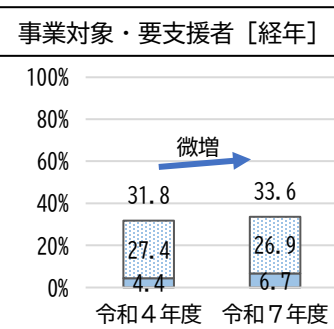
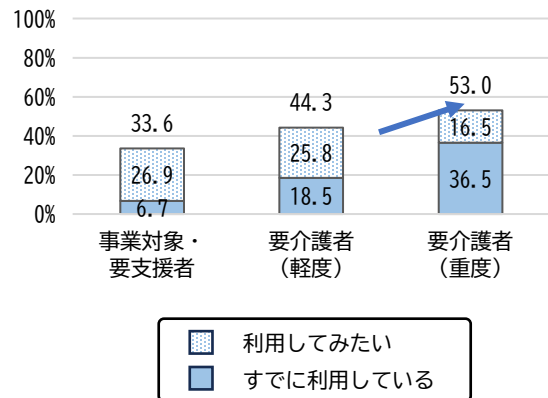
在宅医療の認知度と利用意向

【問】松戸市では、在宅医療と介護の連携の推進に取り組んでいます。在宅医療について知っていましたか。



■ 知っていた

【問】在宅医療を利用してみたいと思いますか。



■ 利用してみたい
■ すでに利用している

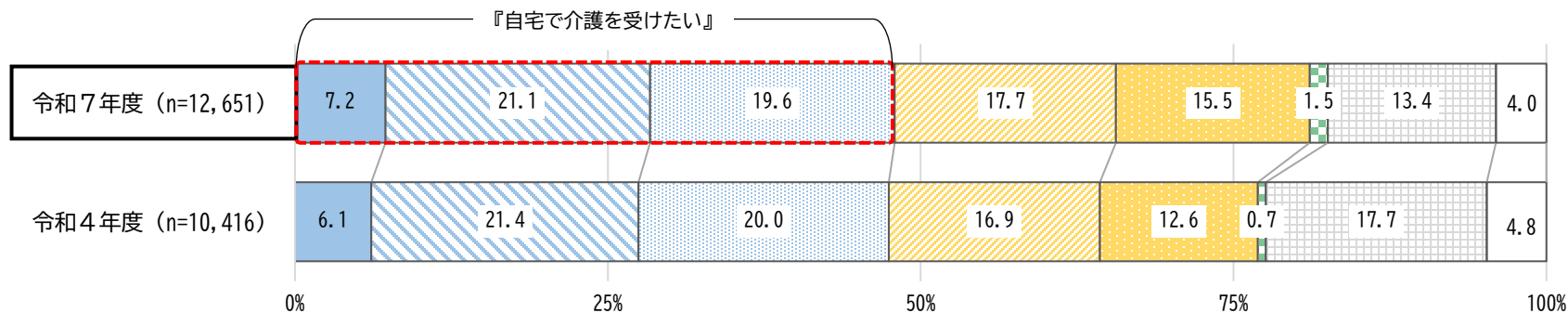
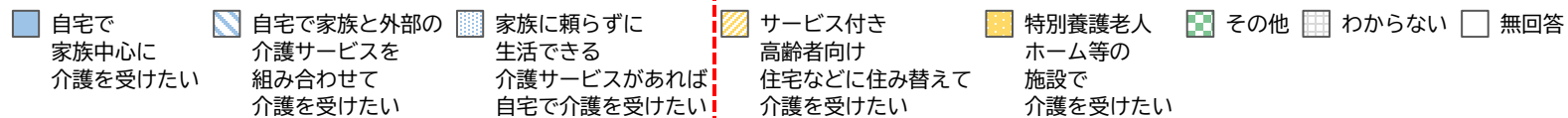
3. 介護サービスの適正な供給

- 『自宅で介護を受けたい』人は前回調査からほとんど変化はなく、約5割となっている。

どこでどのような介護を受けたいか

【問】あなたご自身が寝たきりや認知症になり、介護が必要になった場合に、どこでどのような介護を受けたいと思いますか。

各調査統合



介護保険料

- 『保険料が上げられてもやむを得ない』は前回調査からほとんど変化はなく、約7割となっている。

介護保険料に対する考え

【問】 今後、現役世代が減少する一方で、サービス利用対象者が増加することにより、現在のサービス水準を維持していくためには、保険料負担が大きく増加します。介護サービスと、サービスを支える保険料負担について、あなたはどのように考えますか。

各調査統合

- 現在のサービス水準を維持するために必要な保険料引上げであれば、やむを得ない
- 現在以上にサービスを充実するために、左記よりもさらに保険料負担が上げられてもやむを得ない
- 保険料負担の引上げを左記よりも抑えるため、介護に関する希望を可能な限り実現しつつ、費用負担を軽減する対策も講じる
- 保険料を現状程度に維持することが重要であり、利用できるサービスが削減されても構わない
- わからない
- 無回答

